



初等部だより 7月号

鎌倉女子大学初等部

平成29年6月28日

第4号

全力で取り組むことの大切さ ～初等部運動会～

部長代理 勝木 茂

気温の上昇が心配されましたが、ちょうど良い風が吹き、暑さを多少やわらげてくれた6月10日(土)、初等部運動会を無事実施することができました。



当日は、たくさんの保護者の皆様にご来場いただき、また、最後まで子どもたちにあたたかい励ましやご声援をいただき誠にありがとうございました。

特に、運動会終了後の片付けにおいては、多くの保護者の皆様にお手伝いいただきありがとうございました。テントをたたんだり、長机を運んだりといった子どもたちでは難しい作業を快く引き受けていただきました。「お手伝いしますよ」「まだ、やることがあれば言ってくださいね」などの声をかけていただき、大変心強く保護者の皆様の行動力に感激いたしました。

運動会や修学旅行などの学校行事は、全校または学年規模の大きな集団を単位として行われる教育活動で、望ましい集団活動や感動体験を通して、望ましい人間関係を形成したり、学校集団への所属感を深めたり、公共の精神を養い協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育成したりすることを目標としています。(※平成20年6月 文部科学省 小学校学習指導要領解説特別活動編 参考)一言で言うのなら「大規模集団での感動体験」ということです。

今年は、直前の週に天候が不安定な日があり、子どもたちにとって練習が結構大変だったことと思います。そのような中においても、子どもたちは、自分自身や学年集団のめあてをもち、演技や競技、自分の役割等にしっかり

りと取り組んでいました。練習の過程で成長し、自分への自信が深まっていった子どもたちがたくさんいたと感じています。特に運動会当日には子どもたちの「最後まで全力で取り組む」姿をたくさん見ることができました。わたしはほとんどの子どもたちに「感動体験」があったと感じています。もちろん、今年度より実施させていただきました保護者の皆様への「アンケート」をもとに次年度に向けての課題を整理し、改善に向けて取り組んでいきたいと考えています。(皆様のアンケートの集計結果については、裏面に掲載いたしました。)

さて、今年度の運動会は終わりました。初等部では、子どもたちがこの運動会で得た「自分への自信」を日常の学校生活を通してさらに深めていけるよう育てていきたいと考えます。



過日参加しました研修会で、次のような話がありました。(聞いた話です)

「自尊感情を高めるのは『小さい頃に受けた大人達からの成就感』である」

今後とも、様々な場や機会に保護者の皆様から、子どもたちへのあたたかい励ましをいただければと思います。



※優勝杯、準優勝杯は曾我先生が中心となり事前に心を込めて、磨きました。